

- 1 学校名 山形県立加茂水産高等学校
- 2 活動テーマ名 海を守る人づくり ～山形県海洋教育促進拠点の形成～
- 3-1 実践の概要・ねらい

水産海洋基礎の海に関する単元は「世界の海」と「日本の海」に別けられる。「日本の海」は公海・領海・EEZ・日本近海の海流の内容で2ページの記載で終わっている。そこで、「山形県の海」の現状について新たな単元を開発し、庄内の海を知り、地元理解・海洋教育につなげて行く。

4-1 実践計画

時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1 庄内の海 1) 海岸線（北端と南端、地形） 2) 山形の海（秋田・新潟との境界線） 3) 庄内沖の海流 4) 離岸流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～5人のグループ編成にする。 ・ 配布した地図に記入させ発表させる。 ・ 秋田沖、新潟沖の境界線がそれぞれ違うことを理解させる。 ・ 海岸寄りに対馬海流の反流があることを理解させる。
1	2 山形県の港 1) 山形県の港 2) 港の種類 3) 港の歴史（北前船・明治・大正・昭和）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～5人のグループ編成にする。 ・ 配布した地図に港を記入させ発表させる。 ・ 特定港・地方港湾・漁港の説明をする。 ・ 庄内の港の歴史について触れる。
1	3 庄内の海洋文化 1) 庄内浜の文化 2) 庄内の魚食文化 （ユネスコ食文化創造都市 鶴岡） 3) 庄内浜文化伝道師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～5人のグループ編成にする。 ・ 庄内の文化・魚食文化について記入発表 ・ 庄内の祭りや魚食文化についてグループ発表 ・ ユネスコ食文化創造都市鶴岡について説明 ・ 「浜のアバ」について説明する。 ・ 魚食文化の普及について発表させる。

教科等との関連

庄内浜の文化・魚食文化については、3年生の課題研究でも実施しており、東北公益文科大学と加茂自治振興会主催の「庄内の達人プロジェクト」に生徒が参加し、地元の知識人や漁協婦人部等の方に聞き書きを行い、そこで得た情報を元に、県の水産振興課や庄内浜文化伝道師会長のインタビューなどを総合的にまとめて資料として活用した。

5-1 成果と課題

山形県の海岸線と山形県の海の境界線については、ほとんどの生徒が知らなかった。また、港についても、県内すべての漁港をあげることはできなかった。この狭い小さい山形の海で約130種類の少量多品種の魚が水揚げされ、それぞれの季節に旬を迎えた魚が食卓を飾り、庄内の食生活を豊かなものにしてきた。現在は「浜のアバ」もいなくなり、魚食文化が衰退してきている。幸い本校の生徒は魚を釣ったり、食べることが好きな生徒が多い。魚食文化の普及については、どのような取り組みを行ったらよいか生徒とともに考えるよい時間となった。

山形県の港の歴史・庄内浜の文化・庄内の魚食文化については、まだ、十分な調査ができていない。今後も調査・聞き取り、資料収集を継続して行きたい。

3-2 活動のねらい

今年度の海洋教育研究班のテーマは、①小中学生向けのプログラム作成（山形の海・庄内の魚・船舶）と②庄内の魚食文化について調査し、ポスターを作製することです。海洋教育プログラムの「海」「船」「魚」は本校の学習内容そのもので、それぞれ、世界・日本・山形（庄内）、特に山形の部分に力点を置いてまとめている。魚食文化については、国内で唯一ユネスコ食文化創造都市に認定された庄内鶴岡の魚食文化について調査し、浜文化の伝承と庄内の魅力をさぐることを目的としている。

4-2 実施内容

週2時間の課題研究の時間を基本に通年実施した。①海洋教育プログラム（山形の海・庄内の魚・船舶）については、教科書・図書館の蔵書・インターネット等での調査と県水産振興課・山形県水産試験場の協力を得て調査しまとめている。②庄内の魚食文化については、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの指導助言を受け、庄内浜文化伝道師協会会長にインタビューしたり、東北公益文科大学の指導のもと地元の方々からの「聞き書き」により情報を収集しポスターにまとめた



浜文化と魚食文化について聞き取り調査

地域との連携

山形県庄内総合支庁産業経済部水産振興課・山形県水産試験場・庄内浜文化伝道師協会・加茂自治振興会・東北公益文科大学等との協力により、資料・情報収集を行い連携を深めることができた。

5-2 成果と課題

海洋教育プログラムも魚食文化についても、地元の歴史的な書物がほとんど無く、過去のデータも探すことは困難を極めた。どのようにしてテーマに沿った結論・成果を導き出すか、年度当初かなり考えさせられた。海洋教育促進センターの指導助言や庄内浜文化伝道師協会会長さんのお話により、魚食文化については方向性を見出すことができた。生徒にとっては、1つのポスター（テーマ）を作製するために「海」を題材とした課題解決型のすばらしい学習ができたものと思う。

6 主な連携機関及び内容

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 課題研究「庄内の魚食文化」助言
 東北公益文科大学 加茂聞き書き「加茂の魚食をめぐる文化」書き起こし指導

庄内の魚食文化

山形県立加茂水産高等学校 海洋教育研究班

目的
国内で唯一ユネスコ食文化創造都市に認定された庄内鶴岡の魚食文化について調査し、浜文化の伝承と庄内の魅力をさぐる

調査方法
1 書籍・インターネットによる調査
2 庄内浜文化伝道師協会等地元機関による聞き取り調査
3 地元住民へのインタビュー

調査・活動内容

1 ユネスコ創造都市鶴岡(食文化)への加盟要因
・四季の変化がはっきりした気候で、2000m級の月山から海岸まで幅広い気候帯を有している
・アルケッチャー・奥田政行シェフによる地場イタリアンが観光を呼び込む
・山形県未作物研究会の活動 在来作物を復活 地域特産品販売
・アルケッチャー・奥田政行シェフとコラボレーション
・地場食文化評価が、三菱UFJリサーチ&コンサルティング認定
・鶴岡市の担当者・山形県学部 早智 先生など関係者の5年にも及ぶ努力

2 庄内の漁と魚
約130種類の多種多様な魚介が水産漁獲種が豊富
漁業で若い漁夫が水揚げされる
豊かな自然環境・岩礁域と砂浜域
最上川・最川河口域 変化に富んだ地形
暖流と寒流が出会う漁場を有している。

「庄内の魚は、味の濃さにおいて、そう簡単に他地の魚種の追いつけるものではない。」
砂浜部(庄内市)より

サクラマス 魚の香りを残すには欠かせない魚
口酸がレイ 一人魚を誇り美味しいと言われるマガレイ
口元が小さく硬まっている 変種 コシノガレイ
スルメイカ 山形県で最も多く水揚げされている
庄内浜の特産品「イカの一夜干し」
「魚」の時期に旬を迎えるマダラ
「葉たけ」は庄内の冬の風物詩 豪快な鯛は絶品

3 山形県の漁獲量
昭和40年代 24,517トン
平成に入り 6,000トン前後
イの約1/4、産出額 定額制で全体の約9%
漁獲量の減少・高齢化

4 魚介類及び肉類のたんぱく質消費の推移
平成22年以降肉類が魚介類を上回っている

平成27年
肉類 30kg/年間・人
魚介類 25kg/年間・人

5 魚食文化を伝えてきた浜の「アバ」
「アバ」 魚獲のことを意味する
「浜のアバ」 魚を1軒1軒に運んで売り歩く
行商の女性の事
魚つから道田間を走る早期の「アバ(行商)」
庄内の食卓を支えてきた
庄内全域に1000人以上いたと言われる
(昭和30年~昭和60年)

6 庄内浜文化伝道師
・魚食文化の継承者「浜のアバ」の消滅
・地魚の消費・旬・美味しさを知らない人増加
・食文化が深まる地域の食文化の衰退の危機
・魚の美味しさ・食べ方を伝承し地魚の消費拡大
・庄内浜文化伝道師245名、マスター12名認定

7 庄内浜文化伝道師協会 石塚会長インタビュー
旅館「板本屋」店主 素材本来の持ち味を生かした郷土料理でもてなし
・問 庄内で最も美味しい魚は？ サクラマス
・問 やりやらかさうま味・素材の味が良いから。
・答 魚刺しを食いつける方法が？
魚の骨を抜くなど一手間かえればよい。 家庭の食習慣
石塚会長の印象に残る言葉
魚の旨い → 人間の心、食べるためのもの
天然の魚 → 食べたいもの
小さい頃食べたくてが食習慣に根付いている
季節と魚を組み合わせる
花と魚を合わせて匂を煮す
「魚食」は、行政が力をつくす
魚も「肉」本当は魚肉
甘じょっぱい = 魚の血液の味
鯛類と酒田の魚食文化(違い)

酒田 津町
最上川・最川 川マスが釣れる カレイ 塩焼き
鶴岡 坂下町 磯焼き(魚の穴を塩で焼く) 魚を煮る
「肉」は「魚」で焼く 魚を煮る

仮説
1 魚獲れが減らな理由
・魚獲量・資源減少・漁業規制が強化されたことが理由
・天然の魚が減少し、魚の美味しさ・食べ方を伝承する文化の継承が止まる
2 魚食の普及
・若年層時代から食文化の習慣(家庭の食習慣)・学校給食で「魚食教育」
・庄内浜文化伝道師を育成し、庄内浜の地場の魚の美味しさを伝承する
・メディアを活用し地魚の美味しさ・食べ方を伝承する

まとめ
1 庄内浜は、季節に合わせた旬の魚が水揚げされ、食卓を賑やし、人々の生活習慣となっている。
2 漁獲量が減少し、漁業規制が進み、魚介類の消費が減少
3 庄内の魚食文化の伝承は「浜のアバ」による功績が大きい
4 現在は庄内浜文化伝道師が「浜のアバ」の役割を担っている
5 鶴岡の食文化は漁獲量の減少が原因にある

課題
① 調査結果の聞き書きによる調査(東北公益文科大学)
② 酒田と鶴岡の魚食文化に関する情報不足
③ 庄内の魚食文化と漁業教育

今後の予定
① 加茂地域の聞き書きによる調査(東北公益文科大学)
② アルケッチャー・奥田政行シェフインタビュー(多次)
③ 庄内の魚食文化と魅力についてまとめる

※参考文献 浜から採れる魚(石塚真) 稲葉の味(稲葉真由美)

海を守る人づくり ～山形県海洋教育促進拠点の形成～

1年水産海洋基礎 海と親しみ山形の海を知る

3年課題研究 山形県海洋教育促進拠点の形成

【実践のねらい】

庄内の海を知り、地元理解・海洋教育につなげる

- 時数 通年 週4時間
- 関連 海洋環境
- 目標 山形県の海・海流・港・浜文化・魚食文化について考え、山形県庄内浜の魅力さをさぐる

【実践のねらい】

海洋教育プログラム作成
庄内の魚食文化について調査

- 時数 通年 週2時間
- 関連 水産海洋基礎
- 目標 海洋教育プログラム「海・漁業・魚」作成
庄内の魚食文化ポスター作成・発表

【主な連携機関と内容愛学】

東北公益文科大学 聞き書き指導
東京大学海洋アライアンス
魚食文化助言

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	1年生 4月 磯採集 (2) 1年生 5月 鳥海丸 体験乗船 (4日) 1年生 7月 海洋訓練 (5日)				3年 8月 聞き書き合宿講習会 (2日) 3年 10月 気仙沼高校視察研修 (1日)				3年 海洋教育プログラム海・魚・漁業作成 3年 庄内の魚食文化まとめ (6)			
探究的な活動	3年生 4月 テーマ設定 (2) 5月 調査 (8) 6月 水産試験場書籍調査 (2) インタビュー質問事項作成 (2)				山形の海 (海流・港・漁業・浜文化) (3) 3年 庄内の魚食文化ポスターNO. 2作成 3年 12月 浜文化について聞き取り調査 (3) 3年 海洋教育プログラム 魚・漁業・海作成				3年 庄内魚食文化ポスターNO.3作成最終 (3)			
表現活動	1年生 体験乗船作文 (2) 1年生 6月 校内授業公開週間 (4) 3年生庄内浜文化伝道師協会会長インタビュー (2) 3年庄内の魚食文化ポスターNO.1作成 (6)				3年 8月 海洋教育こどもサミット発表 (2日) 3年 10月 校内SPH中間発表 (3) 3年 10月 鶴岡南SSH中間発表 (2) 1年生 11月 校内授業公開週間 (4)				3年 全国海洋教育サミット発表(2日) 3年 鶴南SSHポスター発表 (2)			
習得した能力	【1年水産海洋基礎】 ○磯採集・海洋訓練により海と親しみ海を知ることができた ○乗船実習を通して、海の大きさや海流、日の出、日の入りなど大自然に触れることができた。				○山形の海を通して地元を知ることができた。 ○浜文化や魚食文化を通して地元の魅力を知ることができた。				【3年課題研究】 ○魚食文化調査や海洋教育プログラム作成を通して山形県の海洋教育の現状を知り、必要性を認識できた。 ○魚食文化の調査により、課題解決能力が向上した。 ○発表を通して、プレゼンテーション能力が向上した。			